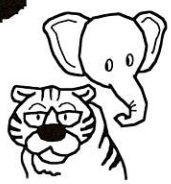
じゃりみち

原本

····仮設支援情報····



第47号　　発行日 98.1.29

阪神・淡路大震災
「仮設」支援NGO連絡会
〒653-0014　神戸市長田区御蔵通5-5
TEL:078-578-6921 / FAX:078-578-6923
E-mail:SHB00846@niftyserve.or.jp
口座番号：01180-6-68556　(郵便振替)

遅ればせながら、

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします

1998年を迎え、阪神・淡路大震災も発生から4年目に入りました。本来ならば毎月第3週発行の「じゃりみち」ですが、今月は「市民とNGOの『防災』国際フォーラム」と時期が重なったため、月末にずらして発行しています。ご了承ください。

先月からの事務局の動き

12/19(金) 村井くん、
　～27(土)　　朝鮮民主主義人民共和国訪問
12/28(日) 年末年始ふれあい祭り(「もやい」にて)
　～1/4(日)
1/ 6(火) 事務局会議
1/11(日) 隆太、防災ｷﾞｬｻﾞﾘﾝｸﾞ'98で唄う(横浜)
1/14(水) **全体会**
1/15(木) **第3回市民とNGOの「防災」国際フォーラム**
　～1/17(土) (神戸・勤労会館/青少年会館ほかにて)
1/17(土) 震災を生きる宗教者の集い(神戸・湊川公園)
1/18(日) 村井くん、防災ｷﾞｬｻﾞﾘﾝｸﾞ'98で語る(横浜)
1/22(木) 事務局会議
1/24(土) ﾌｪﾆｯｸｽ活動助成団体交流会・ぞう出展(神戸)
1/27(火) 全日本仏教婦人連盟新年懇親会・ぞう出展(東京)
1/28(水) 事務局会議/**全体会**
1/29(木) じゃりみち47号発行
1/30(金) 御蔵プレハブ会議
1/31(土) 市民活動発展の基盤を考えるフォーラム(神戸)
1/31(土) 隆太、関東・東北行脚
　～2/3(火)

全体会の報告　～1月14日～ ～1月28日～

「明けましておめでとうございます」とともに始まった今年の全体会。今月は、14日と28日に行われました。今年も昨年に引き続き、仮設NGOの今後について話し合われました。

それぞれの団体がそれぞれの課題を抱える中での仮設NGOの今後は、これから話し合いを続けて3月までに見通しをつけていこうというところです。

震災から3年を迎え、それぞれの団体の今後をどうするのかということもあり、どのように共通項を見出していくのかが焦点となっています。

私たちはこれまでの活動を通して、一番大切にしなければならないのは何かをもう一度考え、この被災地における課題に取り組んでいかなければならないでしょう。来月にはある程度の見通しを立て、3月を来年度の準備期間としていく予定です。

提言・提案チームから

今年はじめの通常国会が開催され、昨年の国会で提出された「災害被災者等支援法案」が、継続審議という形で今国会まで持ち越されている。これで3度目となるこの国会で、しっかりと審議が行われるかどうか、という正念場でもある。

この「災害被災者等支援法案」は、前にもお伝えしたように、「市民が発議して、それを議員が受け、国会に提出された」非常に意義のある法案である。国民主権と言われるこの国では、このような市民の声を吸い上げて作られた法案は非常に少ないと聞く。単純に「公的援助」が必要かどうか、と言うことだけでなく、この法案に含まれている意義というものも、私たちはもう一度再確認しておかなければならないのではないだろうか。

予告編!!

ぞう通信(仮称)

「まけないぞう」をめぐる被災地と全国津々浦々を結ぶ通信紙を発行します。ご期待ください!!

「まけないぞう」のビデオあります!!　サンテレビの11月4日のニュースで「まけないぞう」が取り上げられました。ご覧になりたい方は事務局までご連絡ください。

♡新品のタオルください♡

第3回 市民とNGOの「防災」国際フォーラム

ー1998.1.15～17開催ー

「自立」とは「支え合う」こと

1/15～1/17の3日間、神戸市内の数会場において『第3回　市民とNGOの「防災」国際フォーラム』が開催されました。第2回フォーラム終了後より約2年がかりで取り組んできましたが、準備段階も含め、当日3日間、関係各位のみなさまには多大なるご協力を頂きました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今回のフォーラムは、同時に開催された第29回全国ボランティア研究集会及び全国生協ボランティア活動交流集会との連携のもとで進められました。そんな中での私たち第3回フォーラムの特徴を挙げることで、今回の報告とさせていただきます。

1. 「市民がつくる復興計画(案)」の発表と最終討論
2. 「'98 神戸宣言」の採択と発表（別紙全文掲載）
3. 震災に生きる宗教者のつどいによる「神戸メッセージ」の採択と発表（別紙全文掲載）

という以上の３点です。

振り返ってみますと、この市民とNGOのフォーラムは、第1回より『くらし再建』にテーマをしぼり、シンポジウムやアトラクション等、様々な表現方法を用いてきました。

「ぼくたちの住んでいたビルは、かいたいしてしまってなくなってしまいました。家の道具もみんななくなってしまいました。だからぼくはもう神戸には帰れません。帰る家がありません。ぼくはかなしいです。でも生きていてよかったです。」

フォーラム全体の出発点ともなったこの言葉は、まさに地震災害は1995年1月17日に終わったのではなく、あれからずっと続いており、これ以上自然災害を人災としてはならないと教えてくれました。そして、私たち被災者自身が『くらし再建』の主体として道を踏み出そうと呼びかけました。'97年1月に開催した第2回フォーラムでは、くらし再建を具体化するために「100の提言」をまとめ、これを柱として今後「市民がつくる復興計画」を策定していくと申し合わせました。

第3回フォーラムを前にして発表した「市民がつくる復興計画(原案)」はまさしく3年間重ねてきたフォーラムの集大成なのです。この計画案が何を提言しているのか? 一言で言うと、新しい市民社会の形成に向けて「自立」とは「支え合う」こと、と提言しています。

震災で多くのものを失いました。でも得たものも多く、私たちは震災から学び、気づきました。何よりも「人間は一人では生きていけない」という当たり前のことを身をもって知りました。

これからの私たちの作業は、この計画を発表しただけで終わってはなりません。市民としてひとつひとつ実践していくことです。ぜひ一度読んでみて下さい。そして新しい市民社会をつくるべく一歩を一緒に踏み出してみませんか?

（仮設NGO事務局長　村井雅清）

＊「市民がつくる復興計画(案)」を申し込まれる方は事務局までお問い合わせください。

♡ 未使用 **テレフォンカードく・だ・さ・い**♡

····仮設支援情報····

《仮設は今...》

西区編

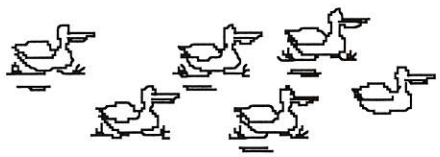
昨年12月、再び神戸を訪れました。

'96年の12月のクリスマスに仮設に住む方々に温かいクリスマスを迎えてもらおうとプレゼントを届けました。支援者の方からの反応は予想以上で、約1,000個のプレゼントを神戸の方々に届けることができ、被災者の方にも大変喜ばれました。ここで改めてご協力して下さった支援者の方に深く感謝致します。有り難うございました。

そして'97年も準備に取り組む前の夏頃から、「今年もクリスマスプレゼントをするんですか？するのなら今から用意しようと思います。」という問い合わせが何件か頂きました。私たちは後押しされるように準備を進めました。その結果、支援者の方の温かい心のこもったプレゼントが今回もたくさん届きました。

私たちは西区の仮設住宅にプレゼントを届けましたが、前回に比べて世帯数がかなり減っていて、空き家が目立ちました。また、10月に行われた第4次公営住宅の抽選発表により、当選した人とそうでない人の心の不安が顕著に表れていました。その上、残されていくのは一人暮らしで身よりのないお年寄りばかりです。

当選した人は、夫婦など家族を持つ人、わりと元気な人で少し市街地から離れてもいい、公営住宅へ移ってもう一度生活を立て直そうという意欲を持った人が多いようです。反対に、当選しなかった人は高齢の方が多く、自分の住んでいた暮らしやすい「まち」に戻りたい、もうどうでもいい、死ぬまで仮設にいればいいとなげやりになる方が多く、倍率の高い市街地に応募したり、最初からあきらめて応募すらしていない人がいて、当選する人も少なくなるでしょう。



このような結果、今でも7割以上が高齢の方という仮設の現状が、今後8～9割以上の人が高齢の方になってしまい、かつ一人暮らしの介護を必要とする人たちだけになってしまいます。

私たちが行った西区の仮設住宅でも約80世帯いる人達の中から30世帯の人達が公営住宅に当選し、転居していくそうです。当選したのは自治会の役員の方が多いと聞かされました。この仮設でも高齢化率は着実に高まっているのです。このような状況下で抽選にもれた人は取り残され感と先行きのない不安にさいなまれているのです。

その中で、2回目となるクリスマスプレゼントは、誰かが支えてくれる、忘れられていないという気持ちを、被災者の方に実感を持ってわかってもらえたと信じます。

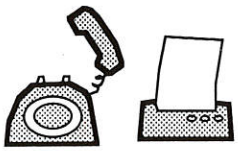
この日の朝、その仮設住宅で倒れてから2日たった老人が発見されました。そのまま病院に移送され、入院しましたが、年明けの1月2日に彼は息を引き取りました。生前、何度か家を訪れ、「また来てね。当分ここにおるから。」と彼は笑顔で言っていました。

神戸の仮設住宅ではまだまだ問題が山積みで、4年目を迎えた今年こそ正念場ではないでしょうか。

（ちびくろ関東ネット　増島智子）

仮設住宅にお住いで障害者の方

5日間「被災地障害者なんでも相談」



1998年2月2日（月）～2月6日（金）　12:00～17:00

フリーダイヤル　0120－616－700

FAX　078－333－4336

2月2日から2月6日までの5日間、電話とFAXによる相談窓口を開設します。あまりに少ない仮設住宅にお住いの障害者の方達の情報を知りたくて、賛同団体とともに，みなさんの声を待つことにしました。どのようなことでもお電話ください。相談は無料、代理の方でもご利用いただけます。

主　催：被災地障害者センター（TEL:078-642-0142 FAX:078-642-0942）

協力団体：阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会、プロジェクト結ふ、阪神高齢者障害者支援ネットワーク、神戸西・助け合いネットワーク、コミュニテイ・サポートセンター神戸、障害者救援本部、障害者問題を考える兵庫県連絡会議、兵庫・草の根ろうあ者こんだん会、社会福祉法人えんぴつの家（順不同）

協　賛　：阪神・淡路コミュニテイ基金

中国河北省大地震 緊急救援

1998年1月10日 M6.2 死傷者12,000人以上 損壊家屋130,660戸

今年1月10日に中国河北省北部の張家口で起きた地震による被害に対し、緊急救援活動を行います。私たちは阪神・淡路大震災以来、96年2月の中国雲南地震、同年6月の中国南部大洪水と、2度にわたって神戸華僑総会の救援活動をバックアップする形で救援活動を行ってきました。今回もこれまで同様、神戸華僑総会の救援活動を全面的に支援し、広く支援を呼びかけたいと思います。みなさまのご協力をお願いします。

義援金の振込先：
郵便振替　口座番号　00970-7-39728
加入者名　阪神大震災地元ＮＧＯ救援連絡会議
＊通信欄に「中国河北省地震」とお書き下さい。
救援物資送り先：阪神大震災地元ＮＧＯ救援連絡会議
〒653　神戸市長田区御蔵通5-5
救援物資品目：使い捨てカイロ、軍手、靴下(いずれも新品に限る)、
インスタント食品

※なお、物資の受付は2月10日(火)必着で締め切らせて頂きます。

支援先：神戸華僑総会

1月12日に救援活動の呼びかけを始めて以来、これまでに約200万円の義援金と、使い捨てカイロ1万個など多くの物資をお寄せいただきました。物資については2月10日に受付を締め切った後に通関手続きをとり、2月中～下旬に中国へ輸送します。また3月上旬に訪中団を派遣し、河北省の被災地へ物資を届ける予定です。

中国河北省大地震・緊急救援実行委員会

神戸国際協力センター・神戸ＹＭＣＡ・コープこうべ・兵庫県国際交流協会・ＮＧＯ外国人救援ネット・阪神大震災地元ＮＧＯ救援連絡会議・阪神・淡路大震災「仮設」支援ＮＧＯ連絡会・神戸ＹＷＣＡ・震災がつなぐ全国ネットワーク・コミュニティサポートセンター神戸・寿ボランティアグループ（順不同・1/12現在）

事務局：中国河北省大地震・緊急救援実行委員会
〒653　神戸市長田区御蔵通5-5
阪神大震災地元ＮＧＯ救援連絡会議　（村井・細川）
TEL:078-578-6921　FAX：078-578-6923